

ひろまちだより

Hiromachi Ryokuchi Park in City of Kamakura



contents

特集	オオシオカラトンボ
連載	樹木区日誌
催事	夏のイベント etc
ほか	コロナ対応

今年は梅雨がはやいね



①初夏から梅雨にかけて熟すヤマグワの実。ヒヨドリ、メジロ、コゲラなどさまざまな鳥が実を食べて種子を運びます②気温が上がり、湿度が高くなると樹上を這い回るミスジマイマイ。クワやミズキなどの葉を食べています③樹上で日暮れをじっと待つモリアオガエル。姿はなかなか見えませんが、湿地の近くで、カララ・カララ・コロコロと声が聞こえます



林に囲まれた水辺を好むオオシオカラトンボ

ひろまちだより 2021年6月号

発行 鎌倉広町パートナーズ

鎌倉広町緑地管理事務所

鎌倉市津 1133 TEL : 0467-32-5112

<http://www.kamakurahiomachi.com/>



デザイン・編集 向田智也



田植え後の田んぼを飛び交う
オオシオカラトンボのベア



林に囲まれた水辺を好むオオシオカラトンボ

Dragonflies prefer waterside surrounded by forests

オオシオカラトンボは池や沼などの止水域で普通に見られるトンボのひとつです。腹の先まで青い成熟したオスに比べて、メスは鮮やかな黄色をしています。水面をたたくようにして産みつけられた卵は秋に孵化し、幼虫のまま冬を越して、翌年に羽化します。成虫は林に囲まれた水辺を好み、広町緑地では、田んぼのまわりなどで春から秋まで見られます。



ずんぐりした体型のヤゴ(幼虫)

シオカラトンボとなにがちがう？

成熟したオスで比べる場合、見分けのポイントは、腹の先端の形状と黒色が締める割合です。シオカラトンボの腹は先端にかけて細くなり、腹の3分の1ほどが黒い模様になっています。シオカラトンボは全国的に最も普通に見られるトンボですが、谷戸で林に囲まれている鎌倉広町緑地（特に田んぼまわり）では、がっしりした体型のオオシオカラトンボが多く見られます。



腹の黒い部分が多いシオカラトンボ

ウッディぴろしの樹木区日誌



Vol.9
シロダモ
(クスノキ科)

海に近く、暖かい地域にある広町緑地には、スダジイやタブなどの常緑広葉樹が多く生えています。シロダモは（葉裏が）シロい、ダモ（タブノキの異名）の名が示すとおり、タブノキに近縁の樹木で、広町緑地のいたるところで見られ、樹高は15mに達する場合もあります。

葉や花に特徴があまりなく、見過ごされがちな樹木ですが、雌株では秋に真っ赤な実が熟し、色彩が乏しくなる冬の広町緑地を彩ります。



タブによく似た長楕円形でつやがある葉



葉の裏はタブよりも粉白色が目立つ



冬は真っ赤な実をつける

イベント情報

コロナ感染防止の措置が継続されていますが、各種イベントを少しずつ形式を変えて実施しています。

8月7日(土)に夜の昆虫観察会(要予約)、8月22日(日)に夏のチョウ観察会が行われます。8月下旬には藍染教室を予定しています。

詳しくは鎌倉広町緑地ホームページをご覧ください。



昨年の夜の昆虫観察会の模様

管理事務所よりお知らせ 新型コロナウイルス感染防止のため、園内での多人数の飲食はご遠慮いただき、引き続き咳エチケット、マスクの着用をお願いいたします。